

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成

- (1) やさしく
- (2) たくましく
- (3) かしこく

合言葉

わたしが主人公、一人ひとりが主人公 ～わたしがわたしをつくる わたしの学校生活をつくる～

2 学校経営方針

(1) 学校力を高める

- ① 子どもの実態を踏まえた確かな力(学力、体力、生活力、心)の育成
- ② 教職員の資質及び指導力の向上
- ③ 校地、校舎、施設等の整備

(2) 家庭・地域との連携

- ① 地域に親しみ、大好きになるふるさと教育の展開
- ② 地域とともにある学校づくりの推進
- ③ 保護者の子育てに重なる教育の推進

(3) 組織力を生かす

- ① 明るく居心地のよい職員室づくり
- ② 業務の見直し、工夫改善による時間外勤務の月45時間を超える職員「0」
- ③ 服務規律の徹底

3 重点目標

【やさしく】の実現に向けて

○心でつながる「あいさつ・返事」 ○学級づくり・仲間づくり ○教育実践の成果の汎用化

【かしこく】の実現に向けて

○どの子どもも確かな学力がつく「わかる・できる授業」 ○確かな学力につなぐ習得
○質の高い、教育活動の構想・実践

【たくましく】の実現に向けて

○「休養・運動・栄養」の習慣化 ○「より良い学校づくり」への参画委員会・係活動で貢献を実感
○働く体験の重視 ○自分の命を自分で守る

4 自己評価

領域	項目	質問内容		アンケート集計				分析及び改善策
				肯定的割合(%)				
				児童	保護者	地域	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	わたしがわたしをつくる	89	97	100	92	教育目標については、合言葉とリンクさせて質問内容を新たに調査した。昨年同様に、概ね高い数値が挙がっている。合言葉がしっかりと浸透してきていると感じている。 一方、教職員の業務改善については、昨年度から数値が大幅に下がっている。改善のアイデアを出し合いながら、ボトムアップで推進し、改善につなげていく。
			わたしの学校生活をつくる	88			100	
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	89	97	100	100		
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している				92		
	業務改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している				69		

心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	89	88	100	42	児童の自己評価は高いが、生活指導に関わって、「ルールやマナー」「挨拶」の項目で、まだ十分ではない実態が伺える。特に、「挨拶」について課題があり、家庭・地域の記述回答にも「児童の自主的な挨拶が少ない」という意見が散見された。良い例を例示するなど、ゴールの姿をイメージさせていく必要がある。 併せて、「あ・は・は運動」は、指導内容を毎月の生活指導目標とリンクさせていたが、そのこととの関連については周知が不十分であった。	
		挨拶をよくしている	93	79	82	62		
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	84	80	58	100		
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	94	100	100		
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	95	96	100	100		
		人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	92	96	100		100
		平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	93	95	96		100
		特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	89			100
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	97	96	100	92	昨年度と比較して、「キャリア教育」については、三者ともに数値が高くなった。キャリアパスポートの取組を充実させてきた結果である。 逆に、「学習指導・教育課程」の2項目で、昨年度より数値が下がっている。さらなる授業改善を進めるとともに、カリキュラムマネジメントによる教育課程の充実に努めたい。また、「家庭学習」についても、児童の取組姿勢への二極化が伺える。学習方法を例示して啓発に努めていく。 継続的な課題であるが、継続して読書活動についても充実を図っていきたい。	
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	90	77		100		
		家庭学習の習慣が身に付いている	93	79		100		
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	89	95	100	92		
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92			92		
	読書活動	読書活動を推進している	77	66		67		
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	91	94	94	「早寝早起き朝ごはん」「体力向上」について保護者の評価が低くなった。 特に、早起きが苦手な児童が多く散見される実態から、家庭の困り感が伺えた。次年度は、学校保健委員会の取組を軸にして、家庭との連携を密にして対応したい。	
	体力向上	基本的な生活習慣が身に付いている	81	77	100	83		
		体力向上に努めている	90	72		82		
		適度な運動に親しむ態度を育てている	91	82	100	83		
	食育	食に関する教育活動を行っている	81	93	100	100		

信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	93	96	100	100	昨年度の課題であったHPの更新頻度を改善したことで、数値が大きく上昇した。このことは、保護者の記述にも肯定的な意見が多くあり成果があった。 学校・家庭・地域の三者連携については、昨年度より教職員の自己評価が高まった。ウイズコロナの対応で、取組を徐々に再開してきた結果である。	
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる			89	100		
	PTA・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている			93	91		
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している						100
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている			89	94	100	環境整備は、空き教室の有効利用の視点で計画的に進め充実してきた。 働き方改革は、日課の改善等で、放課後時間を生み出すことに一定の成果はあった。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる					100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 業務改善については、教職員個々のアイデアを吸い上げながら検討し、全体の取組としていく。今年度は日課の改善に取り組む成果があがったので、今後は、すでに取組を始めている報告物等に関わる分担の工夫、文書のペーパーレス化などを一歩進める。
- 児童の挨拶については、率先垂範の指導に加え、学級ごとに关わるグループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングに改めて取り組み、意識を高めていくようにしていく。
- 「あはは運動」については取り組んでいるものの、保護者や地域への成果の周知が充分ではなかったため、広報に力をいれていく。
- 授業改善に関わって、グループ学習の在り方についてさらに研究を深め、児童の「わかった・できた」という実感につなげていく。
- 教職員の「カリキュラムマネジメント」研修を実施して学習活動の充実を図る。
- 家庭学習の方法を改めて児童に指導するとともに、保護者にも例示して充実に向けた協力をお願いしていく。
- 学校図書館利用について、児童への読書貸出冊数が減少しているため、改めて目標冊数を確認して、利用を励行していく。また、各教科等指導での並行読書活動を計画的に取り入れて充実を図っていく。(全校目標11000冊貸し出しは達成の見込み)
- 長縄や大縄といった体力的なチャレンジ課題を設定し学級で取り組ませっていく(フィットネスチャレンジの活用)
- 教職員のクロムブックの活用研修を実施し授業の幅を広げていく。
- 児童のクロムブックの家庭への持ち帰り頻度を発達段階に応じて高めていき、さらに端末に慣れさせる機会を増やしていく。
- 次年度以降も、縦割り活動に取り組む、工夫して、異学年交流を充実させていく。

6 学校関係者評価

(1)「あはは」運動の充実

①地域に対する「あはは」運動の周知

児童と家庭へは運動の趣旨が伝わってきているが、依然として地域へは浸透が充分でない。普段から行っている、地域のあいさつ運動と関連させていくことが大切である。「あはは」運動という言葉をもっと目に触れさせて啓発していきたい。そこで、この2年間取り組んできた、「非行防止ポスター募集」を、次年度は「あはは運動ポスター」として関連を持たせながら取り組んでいってはどうだろうか。このことを地域でも話題に挙げて、取組方法の変更を検討していきたい。

②あいさつの励行

ゴールの姿が明確に共有できていないのかもしれない。教職員は「自分からあいさつする」ことをイメージしているが、児童や地域は「こちらから声を掛けたら反応する」ことをイメージしているように感じる。会釈でもよいので、「あいさつを返せる」というところに目標を設定してもよいのではないだろうか。

また、あいさつは家庭教育が基本であるので、ぜひ、育友会でも話題にしてほしいと思う。

(2)その他

①子どもたちの様子

昔は、児童同士が、お互いのことを、名前の呼び捨てやあだ名で呼び合っていたことを思い出す。

現在、学校生活の中では、児童はお互いを「くん・さん」付けで呼び合っていることを知り感心した。

②今日的な教育課題

ヤングケアラー、発達障害への対応など、今日的な教育課題についてニュースで知ることが増えた。今後さらに学校が大変になるのは予測できることである。だからこそ、ぜひ、家庭・地域との協働連携を進めていってほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

(1)「あはは運動ポスター」への協力

運動の周知という意義を教職員で共通理解し、充実した取組となるように協力していく。

(2)ゴールの姿を明確にした「あいさつ」指導

学校・家庭・地域と、めざす「あいさつ像」を共有して取組を進めていく。